

# アフリカの古着市場と ローカルな流行におけるその影響

ノースウェスタン大学名誉教授 カレン・トランバーグ・ハンセン

## THE SECONDHAND CLOTHING MARKET IN AFRICA AND ITS INFLUENCE ON LOCAL FASHIONS

Karen Tranberg HANSEN, Professor Emerita, Northwestern University

The subject of this dissertation is to discuss how secondhand clothing sent from the Western Hemisphere to Africa is accepted there, especially in Zambia.

Many of the clothes people in the West donate to charity organizations are sold to recycling companies, who classify and export them. This international trading business in secondhand clothing grew rapidly during the 1990s. Among the destinations of such clothing, sub-Saharan African countries are the top importers, receiving nearly 30% of the world's export of secondhand clothing in 2006.

In some areas of Western African countries, clothing defined by local tastes, produced by traditional dyeing and knitting techniques coexists with the new-style clothing brought from the West during and after the days when the countries were the colonies of Western countries. However in Zambia, traditional dyeing techniques have been almost completely lost, and people of all classes wear Western secondhand clothes, excluding those of the upper class. The imported secondhand clothing is called *salaula* in Zambia, which means "to rummage and select from amid a heap." This word vividly illustrates the scene in which consumers select newly-unpacked imported secondhand clothes. Such secondhand clothes are not necessarily worn as they are. They can be modified or transformed into completely different clothing, according to the desires of the new owners who hope to appear more distinguished or more eye-catching. Cultural exchanges through clothes produce original creations. Such secondhand clothes produce market store owners, trendsetters, clothing repair shops and tailors, stimulating committed fashion designers.

In Zambia and in other areas of Africa, more customers are obtaining secondhand clothing to find new fashion styles and to dress themselves more fashionably, rather than to obtain living necessities. This change is spreading from the markets to tailors' ateliers and stores. In this way,

the use of secondhand clothing by customers in Zambia and other areas in Africa may break down the Western hegemony in fashion and may establish a new style.

被服やファッションの研究者は、西洋から古着を輸入している国で生まれる服装上の慣習について、長らく真剣に取り上げてはこなかった。それよりも、古着の輸入品を、西洋ファッションの色褪せて使い古された模倣になっているととらえる向きが多かった。大衆メディアは定期的に古着の輸入品を話題にし、古着を受け入れた国の衣服・テキスタイル産業が減んでしまうと騒ぎ立てている (Hansen 2004)。一方、西洋では、古着が儉約や慈善活動を連想させることが少なくなり、ファッションに敏感でヴィンテージや特定の時代の服を探している消費者の目を惹くようになった。彼らは既存の服に合わせる個性的な服や、メーカー品の単調さから抜け出せる服を探し求めている。近年、古着が実りの多い研究テーマとなっていることは驚くべきことではないだろう (Gregson and Crewe 2003, Palmer and Clark 2005)。開発途上国の輸入古着に関する服装上の慣習に焦点を当てれば、これまでにない研究テーマが開けてくる。

本論では、西洋で打ち捨てられた服が、アフリカ (Fig.1)、とりわけザンビアの日常生活で使われる際に何が起こるかを探求する。ザンビアは、筆者が都市生活や消費行動に関する人類学調査を行った国である。西洋からアフリカへともたらされる古着輸入品の増加について概観した上で、アフリカ各地での事例を取り上げる。次にザンビアへ目を向け、マーケットや服装上の慣習を紹介する。まとめでは、古着を消費する中で創造性を発揮する場が、グローバルな広がりを持ったローカルな衣料品マーケットにみられる服装上の選択の自由であることが浮かび上がってくる。

### 古着の国際取引とアフリカの衣料品市場

西洋の消費者が慈善団体に寄贈した衣服の多くは、テキスタイルのリサイクル業者に大量に売りに出される。業者はそれを輸出市場向けに分別し、等級をつけ、固まりにしている (Hansen 2000) (Fig.2)。古着の取引は長い歴史を持っているが、その経済的な影響力とグローバルな広がり、1990年代初頭、多くの開発途上国の独立と増大する旧東側諸国からの需要を受けて大きく成長した。米国は、量、価格ともに世界最大の輸出国であり、2006年の時点では、英国、ドイツ、ベルギーとルクセンブルク、そしてオランダが続いている。世界的にみれば、〔古着の〕取引は1990年代初期の10倍に伸びている (United Nations 2008:121)。

サハラ以南のアフリカ諸国は世界最大の古着の仕向地となっており、2006年時点で世界

の総輸出品の30パーセント近くを受け入れている。アフリカにおける古着の消費行動は、輸入規則だけでなく、地域的な慣例や身体と服装にかかわる文化的規範によって形作られている。古着の輸入を禁止している国もあれば、特定の衣服の輸入を制限している国もある。古着の輸入品が禁止されているにもかかわらず、活発な国境間取引が行われている国もある。

アフリカの衣料品市場は、地域による違いがかなりある。イスラム教徒が大多数を占める北アフリカでは、輸入品衣料に占める古着の割合はサハラ以南より小さい。服装上の慣例は、イスラム教徒かキリスト教徒かというような宗教上の規範のみならず、性別、年齢、階級、地域／民族性によっても異なる。総合すれば、こうした要素が服装上の慣習における文化的規範を伝え、どういった人々が、いつ、どのような服を着るかを左右している。ほぼすべての場所で、若者は古着を使いながら世界的なタレントやメディアに触発された独創的な装いに身を包み、一時的かもしれないが、根強く残る服装上の規範に異を唱えようとしている (Masquelier 2013:147-149)。

大まかではあるが、西アフリカ諸国の中には、織りや染め、プリントといった長年培われた染織技術で作られた地域色溢れる服装のスタイルが、今日、植民地時代以降にもたらされたものと共存しているところもある。例えば、ナイジェリアやセネガルにおいて、古着は特定の地位を確保している。極貧困者に限らず、さまざまな社会経済的集団に属する人々が輸入古着を購入し、日常着として使っているが、特別な行事となるとセネガルやナイジェリアの人々は、通常、長くその土地に根付いた服装の慣例に従う。その地域で制作された「アフリカ」色のある布地で自慢げに着飾るのである。これと大いに対照的なのがザンビアである。同様の染織技術は植民地時代以前にほぼ失われてしまい、今日では、上流階級を除く社会経済の全階層の人々が西洋の古着に身を包んでいる。

そしてこれが重要なことだが、服装上の伝統は新たに作り出されもする。1994年の政治的な独立後、南アフリカでは、新たに政権に就いた男性の中でファッションに目を向けだす者もいた。ネルソン・マンデラ大統領が着用していたインドネシア風の明るい柄のシャツは、タイやジャケットなしに着ることで、すぐさま「マンデラ・シャツ」としてローカルな流行のひとつとなり、近隣の国々でも人気を博した。アフリカ各地、そして海外移住者の中で、流行発信者やデザイナーが作り出す独創的な服を目にすることが多くなってきている。そうした服は、さまざまなものからのレファレンスや種々のスタイルの要素、布地、装飾物をうまくミックスしたものとなっている (Klopper 2000)。この過程において、輸入古着は積極的に活用され、スタイル上の構成要素として新たに詠えたデザインに組み込まれる (Grabski 2010:34)。

## ザンビアにおける古着と服装上の慣習

南部アフリカでは、ザンビアの人々はお洒落だと思われている。ザンビア女性は周辺地域の女性に比べてきれいな服装をすることで有名であり、ザンビアのエリート男性はロンドンのサヴィル・ロウのテイラーで誂えたスーツを好むことが知られている。首都ルサカの小規模なテイラーが製作するデザイン性の高い服は、「チテンゲ (chitenge) (Fig.3)」という多色プリントの生地を用いており、遠距離取引業者によって南アフリカで転売される。そこでは、この服を「ザンビア」と呼んでいる。チテンゲ製の女性服、それに男性のスーツは、経済開放以来急激に多様化した服装の分野の一部である。輸入規制が緩和された1980年代後期、アメリカやヨーロッパからもたらされる古着は急速に人気の交易品となり、消費品目となった。

1980年代半ばから、輸入された古着は「サラウラ (salaula)」と呼ばれるようになった。ベンパ語で「積まれた山をくまなく探して選び出す」という意味である。この言葉は、選ばれてきた古着の梱がひとたび開けられ、消費者が自らの要求や欲望を満たそうと服を選ぶ際に繰り広げられる光景を鮮やかに描いている。この過程を経ることで服が持っているそれまでの来歴が剥ぎ取られ、新たな生活を送る準備が整えられる。

ザンビアの消費者はさまざまな理由から古着マーケットに行く (Fig.4)。ルサカ市内のホワイトカラーの人々は男女共ランチタイムによく古着屋を物色し、時に衝動買いをする。特定の服に合わせるのにぴったり適した品を探しに来る者もいる。自宅で服の仕立てをしている女性は、服にアクセントを添える面白い釦やベルト、装飾品を求めている、転売目的で服を買いに来る者もいる。とはいえ、ほとんどの人は自分や家族のためにサラウラを買い求める。古着は貧しい消費者にとって役立つものであるばかりでなく、より所得の高い消費者を引きつけ、気晴らしに市場へと足を向けさせるものでもある。今なおザンビアでは、わずかな高所得者層にしか衣服市場で事実上の選択の自由がない。彼らは、ルサカの新しいショッピング・モールに入っている高級店やブティック、古着のマーケットと、あらゆる場所で服を購入している。仕立て服にも貧困世帯の人々よりお金を費やしている。

服の消費といえども簡単な話ではない。需要の側で重要となる要素に、文化的な嗜好やスタイルへの関心がある。それらが一体となって「<sup>トータル・ルック</sup>全体の装い」が創られていく。布地の質や肌触り、構成への関心がそうした〔装いの〕創造よりも先に立つと、今度はこの創造が特定の状況にふさわしい期待にそった服の需要を中心に展開する。「外の世界」からやって来た服が持っている大きな魅力は、流行のスタイルや種類の多様さであって、価格ではない。社会階層に関係なく人々がサラウラを買い求める理由はそこにある。ブランド名よ

りも「これぞという<sup>ルック</sup>装い」を求めて、人々はどの服を買うかを決めている。

古着マーケットで買い物をする際、消費者がどういった格好にしようか思いを巡らせるのであれば、世界各地のトレンドがひらめきを与えてくれる。消費者は、身体と服装にかかわるローカルな規範に合わせながら、そうした影響をうまく取り入れていく。成人の男女共が求める服のシルエットは、シンプルで整ったものである。それは、服が細部までケアされ、あまり露出のないように着用されていたことの表れである。そうした場合でさえ、女性服と男性服は別のものとして考えられている。男性を刺激しないようにしているため、女性は自身の服装の自由が制限されているという感覚がある。女性は肩を露出すべきではない。何をおいても自分の「私的な部分」は覆い隠さなければならない。アフリカのこの地方では腿も対象である。つまるところ、服の長さ、体のラインが出るかどうか、生地 of 透け具合が、家庭でも公共の場でも女性が男性や年長者と接触する時には問題となる。

個性を出したい、目立ちたいという欲求が、ザンビアの条件下で着飾ろうとする中で、少なからぬ〔装いの〕スキルを育てている。特定の行事や場面に着る服を組み合わせる際に大量のサラウラから選び、品質やスタイル、金銭価値を見定めるスキル、着飾った時に頭から足先までの立ち居振る舞いから「全体の装い」を作り出すスキルである。消費者の多くが個性的な印象を作り出す服を買うことに驚くほど長けている。こうしたことの基礎となる感性が、服装の美意識である。一見すると無数のバリエーションを生み出しているように思われるが、詳しく見ていくと連続性のあることもわかる。

## 創造的リデザイン

新たに<sup>リデザイン</sup>した古着が、ザンビア都市部の商業・企業エリアで入手できる。まず非常に基本的な動きとして、広くお直しや改造がマーケットや個人宅にある仕立て屋のアトリエで行われる (Fig.5)。そこでは、何の変哲もない服が新しい着用者に合わせて、たった一つの服へと作り変えられていく。次にザンビアで「ブティック」と呼ばれる専門店がマーケットに現れ、あらかじめセレクトした商品を、流行を意識した服装になるよう組み合わせ、売出す。「ブティック」はファッション感覚に優れた若い男性によって経営されていることが多い。輸入業者が古着の梱を開けるやいなや、彼ら若者たちが殺到し、その場で服を「抜き取る」。それから、例えば女性用のツーピース・アンサンブル、男性用スーツ、レジャーウェア、といったように組み合わせる。

そして、古着の販売場所が、家やバー、ストリートといった場所にでき、新しい世代のファッションに敏感な若者が才能と創造性を発揮して古着をお洒落な服装に組み合わせ、それによって生計を立てる。減少する正式雇用と都市部の再開発によって彼らの経済上の

選択肢が狭まっている。そのことを背景に、彼ら若い企業家たちは古着を新たな生業のための糧としながら、社会のすべての階層が持つスタイルや流行に対する欲求に応えている。

## まとめ

近年、ザンビア、そしておそらくアフリカの他の地域でも、古着のニーズが必需品から日常生活で行われる「新しい装い」を求める服装の美意識へと変化している。日常的な服装上の慣習から生み出された成果は、マーケットから仕立て屋のアトリエ、創造力を発揮する販売場所へと広がりを見せている。社会的な交流を通じて、文化に根差した発想が、古着をその土地に合う服へと変える手助けをしながら、「最新」という効果を得る。これは、ストリートや社会的な集いで日常生活、人々の装い、服装についての講釈、生地やデザインの特徴、着こなしの細かな点を吟味する眼などを考えると明らかなことである。

地域や地方、そして国境を越えてさまざまな方向から刺激を受けながら、古着を介した人々の交流は独自の創造性を生み出している。古着は、マーケットの店主、ストリートの商人、流行発信者、そしてお直しや一から縫製する仕立屋の雇用を創出し、その過程で熱意のあるデザイナーにひらめきを与えている。社会階層や地域的な条件に伴う立場、性別や年齢に違いがあるものの、ザンビアの人々は、欲求や規範による制限から自由であることの意味を、古着の消費に見出している。こうした実践を通じて、彼らはグローバル世界における自分たちの位置を表明している。換言すれば、ザンビアの消費者は、ファッションにおける西洋のヘゲモニーの崩壊につながるであろうスタイルの変革を決定づけるローカルな存在なのである。

(翻訳：石関亮)

## 〈参考文献〉

- Gregson, Nicky and Louise Crewe. 2003. *Second-hand Cultures*. Oxford: Berg.
- Grabski, Jonna. 2010. "The Visual City: Tailors, Creativity, and Urban Life in Dakar, Senegal." In Suzanne Gott and Kristyne Loughran (eds.), *Contemporary African Fashion*. Bloomington: Indiana University Press, pp. 29-37.
- Hansen, Karen Tranberg. 2000. *Salaula: The World of Secondhand Clothing and Zambia*. Chicago: University of Chicago Press.
- Hansen, Karen Tranberg. 2004. "Helping or Hindering? Controversies around the International Second-Hand Clothing Trade." *Anthropology Today* 20(4), pp. 3-9.
- Klopper, Sandra. 2000. "Re-Dressing the Past: The Africanisation of Sartorial Style in Contemporary South Africa." In Avtar Brah and Annie E. Coombes (eds.), *Hybridity and Its Discontents: Politics, Science, Culture*. London: Routledge, pp. 216-231.
- Masquelier, Adeline. 2013. "Performing Distinctions: Youth, Dress, and Consumption in Niger." In Karen Tranberg Hansen and D. Soyini Madison (eds.), *African Dress: Fashion, Agency, Performance*. London: Bloomsbury, pp. 138-152.

Palmer, Alexandra and Hazel Clark (eds.), 2005. *Old Clothes, New Looks: Second Hand Fashion*. Oxford: Berg.  
United Nations. 2008. *2006 International Trade Statistics Yearbook. Vol. II: Trade by Commodity*. New York: United Nations.

#### 〈図版〉

- Fig. 1. アフリカの地図 2011年  
Africa map. Courtesy of the University of Texas Libraries, The University of Texas at Austin.
- Fig. 2. 未分別の古着の梱 (500kg) シカゴ救世軍 1997年 著者撮影  
Unsorted 500kg bales of secondhand clothing. Salvation Army, Chicago, 1997. Photo by Karen Tranberg Hansen.
- Fig. 3. 「チテンゲ」を着た女性 (ブライダル・シャワーにて) ルサカ 1997年 著者撮影  
Women wearing *chitenge* dresses at bridal shower. Lusaka, 1997. Photo by Karen Tranberg Hansen.
- Fig. 4. カンワラ・マーケットにて ルサカ 1995年 著者撮影  
Scene from Kamwala market. Lusaka, 1995. Photo by Karen Tranberg Hansen.
- Fig. 5. 別々のスウェットから取った生地を接ぎ合わせて新たなスウェットを作る仕立屋 ソウエト・マーケット 1997年 著者撮影  
Tailor preparing sweatshirts using strips from unmatched sweatsuits. Soweto market, Lusaka, 1997. Photo by Karen Tranberg Hansen.

#### カレン・トランバーグ・ハンセン (Karen Tranberg Hansen)

ノースウェスタン大学名誉教授。都市・経済人類学者として、ザンビアの都市生活、非公式経済、労働、消費、ジェンダーなど広範囲にわたるリサーチを行う。著書に『Distant Companions: Servants and Employers in Zambia, 1900-1985』(1989年)、『Keeping House in Lusaka』(1997年)、『Salaula: The World of Secondhand Clothing and Zambia』(2000年)。共編著に『African Encounters with Domesticity』(1992年)、『Reconsidering Informality: Perspectives from Urban Africa』(2004年)、『Youth and the City in the Global South』(2008年)、『African Dress: Fashion, Agency, Performance』(2013年)など。

(※肩書は掲載時のものです)